

「わたしたちが持っているもの」

使徒言行録3：1～10
ルカによる福音書 4：18～19

2023年6月25日
野村 友美 師

<ペトロが持っていたもの>

先週はこの呉教会の礼拝を松田基子先生にお任せして、私は岡山教会の礼拝応援に行っていました。岡山教会に伺うのは初めてでしたから、ちゃんとたどり着けるか心配でしたが、あちらの方が親切に最寄り駅まで迎えに来てくださっていて、無事に行ってくることができました。

祈ってくださって、ありがとうございました。岡山教会の皆さんにとっても温かく迎えていただき、楽しい時間を過ごしてきました。感謝です。

さて、今日の聖書の物語に登場するペトロの言葉は、ご存知の方も多いでしょう。

わたしには金銀はないが、持っているものをあげよう。そう言ってペトロは、歩けなかった人をイエス様の名前によって立ち上がらせて歩けるようにしました。

「わたしが持っているものをあげよう」と言ったペトロが持っていたものとは、一体何だったのでしょうか？ 奇跡を起こす不思議な力でしょうか？ どんな病気でも癒せる特別な権限でしょうか？ そうかもしれません。

でもペトロが差し出したのは、「福音」と呼ばれる良い知らせでした。神様がイエス様を通して、すべての人に愛と救いを差し出してくださった。この良い知らせを証言するために、ペトロたちは

イエス様から聖霊を与えられました。神様はあなたを愛しておられる。あなたを救いたいと願っておられる。この良い知らせをペトロはこの時、目の前の人に向けて差し出したんです。

歩けなかったその人を、イエス様の名前によって立ち上がらせて歩かせる、という方法で。

<神殿の門の前で>

二人の使徒たち、ペトロとヨハネは午後3時の祈りの時間に神殿に上っていった、と今日の場面は始まっています。ユダヤ教では1日3回、朝9時とお昼の12時、そしてこの午後3時が特別な祈りの時間になっていました。

毎日のことですから、もちろん家で祈っても会堂で祈っても良かったんですがエルサレムに住んでいて信仰深い人たちは、できるだけ神殿に行って祈っていたようです。

特に午後3時の祈りの時間は、神殿で午後の犠牲が捧げられる時間でもありました。

だから1日の中でも、この時間は特に神殿に行つて祈る人が多かったんでしょう。

イエス様の弟子たち、そして最初の教会の人たちは、自分たちがユダヤ教を離れて別の新しい宗教を始めたつもりはありませんでした。

神様が約束しておられた救い主、イスラエルが長い間待ち続けてきたメシアこそ、あのナザレ人のイエス様だった！

イエス様によってユダヤ教の聖書の予告が実現したんだ、と彼らは信じて受け入れたんです。

だから最初の教会の人たちは、自分たちの家で集まって祈るだけじゃなくて毎日心をつ一つにして神

殿に行っていた、と今日の場面のすぐ前にも描かれています。ペトロとヨハネもそういう毎日の習慣として、この日もエルサレム神殿に祈りに行く途中でした。

神殿の近くまで来たペトロたちの目の前に、ある一人の男性が運ばれてきます。彼は生まれつき足が不自由な人で、神殿に来た人たちから施しを受けるために 毎日「美しい門」と呼ばれる神殿の門のそばに運んでもらっていた。そう使徒言行録はこの人を紹介しています。当時の社会では、体が不自由な人が働いて生活するのは、ほとんど不可能でした。サポートする設備も道具も整っていませんでしたし、そもそも「体が不自由でも働けるようにサポートしよう」という発想自体がなかったのかもしれませんが。

この時代、病気や体の不自由さは、本人かその人の親が罪を犯したせいだと考えられていたからです。かわいそうだけど、この人は神様から罪の罰を受けているんだ。この人の苦しみは、罪の償いだから仕方がない。周りの人たちだけじゃなくて、不自由さを抱える本人もそんな風に考えていました。

それでも、体が不自由な人や病気の人に施しをするように、とイスラエルの律法で決められていましたから、働けなくても何とか生きていくことはできました。生まれつき足が不自由だったというその人も、とにかく生きていくために毎日 神殿の門のそばで施しを求めていたんです。

午後3時、1日のうちでいちばんたくさんの人が神殿に来る時間を狙ってこの日も彼は神殿の門の

そばまで運んでてもらいました。

そこを通るのは、わざわざ神殿まで祈りに来ぐらい信仰深い人たちです。歩けないこの人が施しを求めたら、きっと多くの人が律法にしたがってお金や食べ物や、彼の生活を助ける何かを差し出してくれたでしょう。

この人がどういう性格とか考え方を持っていたのかはわかりませんが、なかなか賢くしたたかに、場所と時間を選んでいると思います。神殿に入っでいこうとするペトロとヨハネにも、この人は施しを求めました。

するとペトロはヨハネと一緒にじっと彼を見つめて、ちょっと不思議なことを言います。

「わたしたちを見なさい」。

もちろんこの人は無視されないように、最初からペトロとヨハネの方を見て「施しをください！」と声を掛けていたはずです。

でもペトロは、彼に改めて自分たちを見るように要求しました。施しを求めたこの人は、ペトロたちを見ているようで見ていなかったんです。

彼にとって、目の前の2人はただ自分に施しをくれるかもしれない人、つまり 生きるために利用できる相手というだけの存在でした。

欲しいものだけくれたらいい、という一方的な態度じゃなくて、まず私たちとしっかり向き合っほしい。施す人と施される人じゃなくて、利用する人と利用される人でもなくて、まず一人の人間同士として対等にあなたと向き合いたい、とペトロは彼に求めたんです。

これからペトロが差し出すものを、「施し」じゃな

くて「贈り物」として受け取ってもらうために。何だかわからないけど何かもらえるみたいだ、と期待して見つめ返すこの人に、ペトロは「お金はないんだ」と前置きしてから、自分が持っているものを差し出しました。

「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

そう言うと、ペトロは彼の右手を取って立ち上がらせました。するとたちまち、生まれつき歩けなかったこの人の足に歩く力が与えられた、その様子を使徒言行録は生き生きと描いています。彼は躍り上って立つと、そのまま歩き出しました。生まれて初めての感覚を味わって噛みしめながら、歩けるようになったこの人はまず神様を賛美して、それからペトロたちと一緒に神殿へ入っていきます。彼が受け取ったものは、歩けるようになった喜びだけじゃありませんでした。

もっと大きくて思いがけなくて、期待もできなかったものをこの人は受け取ったんです。

先にもお話ししたように、この時代、体の不自由さは罪の罰だと考えられていました。

だから生まれた時から足が不自由だったこの人にとって、神様は何よりもまず自分に罰をお与えになった御方だったんです。そして彼にとっての自分自身は、生まれながらの罪人でした。

動かない足は彼にとって、神様から拒絶されている証拠でした。健康な他の人たちは、自分と違って神様から愛されて祝福されている。

こんな自分が生きていくには、誰かの祝福のおこぼれを恵んでもらうしかない。そんな風に諦めて絶望して、ただ1日1日を生き延びることだけ考えて この人は毎日、自分を拒絶しておられるはずの神様を礼拝する神殿の門のそばに座り続けていたんだろうと思います。

動かなかった足が動くようになった時、この人はただ歩けるようになっただけじゃありませんでした。彼は生まれて初めて、神様からの愛を実感できたんです。

神様が私の罪を赦してくださった、もう私は神様から拒絶されてない！その救いの喜びが、彼を躍り上がらせたんです。

どんなに嬉しかったか、どんなに安心したか、想像してもしきれません。歩き回って、地面を踏みしめて踊って、足の感覚をいっぱい使って神様の愛を味わってこの人は神様を賛美しました。

そして神様に感謝の祈りを捧げるために、神殿の門をくぐって行きました。

<わたしたちが持っているもの>

持っているものをあげよう、と言ったペトロが差し出したもの。それはまず「ナザレの人イエス、私たちの救い主の力によって立ち上がりなさい」という救いの宣言でした。そしてその救いを受け取れるように差し出した、ペトロ自身からの助けの手でした。

イエス様を通して私たちすべての人に与えられた、神様の愛と救いを宣言する言葉。その救いを受け取ることができるように、目の前の人を助けるために差し出す手。それがペトロの持っていたもの

の中で、いちばん価値があるものだったんです。ペトロだけじゃありません。イエス様を救い主だと信じて従う一人一人が、同じものを持っています。かつてイエス様はご自分が生まれ育ったナザレの町の会堂で、旧約聖書のイザヤ書の言葉を読み上げて、救いの始まりをこう宣言なさいました。

「主の霊がわたしの上におられる。

貧しい人に福音を告げ知らせるために、

主がわたしに油を注がれたからである。

主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている

人に解放を、目の見えない人に視力の回復を

告げ、圧迫されている人を自由にし、

主の恵みの年を告げ知らせるためである。」

(ルカ4：18-19)

この聖書の言葉は今日、あなたがたが耳にしたとき実現した、とイエス様は言われました。

捕らわれている人は解放され、見えなかった人は見えるようになり、圧迫されている人は自由にされて、神様の恵みの訪れが告げ知らされる。

預言者イザヤが伝えた神様の救いの予告は、イエス様という形で実現したんです。私たちすべての人の罪を、イエス様が十字架の上で背負ってくださいました。だからもう誰も神様から拒絶されることはない、とイエス様の死が私たちに向かって宣言しています。そしてイエス様の復活は、神様と一緒に生きる永遠の命の約束を私たちすべての人に差し出しています。

このイエス様を世界中のすべての人に伝えるた

めに、聖霊は降ってこられました。

私たちが持っているもの。

それはペトロたちから今に至るまで、イエス・キリストの弟子とされた一人一人が聖霊によって受け取って、また聖霊によって差し出してきたものです。いろんな形で、いろんなタイミングで、いろんな方法で、聖霊は私たち人間の歴史を通して、私たちの真ただ中で今も働き続けておられます。今日、ここにおられる一人一人が、神様からの愛と救いを受け取って差し出す聖霊の働きに招かれています。その働きは何か特別で、人の目を引くようなものとは限りません。とても小さな出来事だったり、たった一人の誰かのための働きかもしれせん。

特別な場所やタイミングじゃなくて、日常のささやかな場面で、いつもの光景の中で、ふっと神様から背中を押されることもあるでしょう。

金や銀は持っていない、特別なものは何もないけど、ただイエス様に救われて、神様の愛を受け取っている。そんな私たち一人一人の存在を通して、聖霊は自由に働かれるんです。

神様は私の罪を赦してくださいました、私は神様から愛されている！そう実感できる喜びと安心を受け取って、それをまた誰かに手渡すことができますように。それぞれの場面で、それぞれのタイミングで、それぞれの方法で、聖霊が私たちの言葉と行動と思いを使って働いてくださいますように。ご一緒に祈って期待しながら、今日も新しい一週間へと送り出されていきましょう。

お祈りいたします。